

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902710		
法人名	株式会社アイエスティサービス		
事業所名	グループホーム1条ハイツ		
所在地	旭川市1条通6丁目83番地		
自己評価作成日	平成28年5月1日	評価結果市町村受理日	平成28年7月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902710-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成28年6月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が安心して日常生活が送れるように、職員の入れ替わりがなるべくないように、ミーティングや朝礼、飲み会などでコミュニケーションを図り相談しやすい環境を作っています。入居者様には各個人の嗜好、要望、ご家族様の気持ちなどを優先し、一人ひとりに合った介護を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川駅前に所在して、交通の利便性に恵まれ開設10年を迎える1ユニット(定員:9名)のグループホームです。職員の離職も少なく、継続したケアサービスを提供していると共に地域の人々に向けて介護で困っていることや助言など気軽に相談ができる体制を整えて地域貢献ができるように取り組んでいる。日常生活の中では、本人の思いや希望を大切にしながら一人ひとりの力を活かし、音楽大行進や上川神社祭見物、大型ショッピングセンターに買い物に出かけるなど楽しみごとや気分転換への支援をしている。また、地域のボランティアの協力を得てハーモニカ演奏や民謡、歌謡ショーやマジックの開催など地元の人々との交流の機会を持てるように取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフが理念に沿ったケアを提供できるよう施設内に理念を掲示している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を見やすい場所に掲示して、内部研修会や日常業務を通じて話し合い、その実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が少ないが、近隣の会社や店の方に協力をお願いしている。運営推進会議の中で防火時の協力体制をお願いしている。	地域の人々に向けて介護で困っていることや助言など気軽に相談ができる体制を整えて地域貢献ができるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも立ち寄って、相談や助言させていただくことができるよう、介護認知相談の体制を作った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状報告や活動内容、防火の取り組みについて意見交換をし、アドバイスを取り入れサービスの向上に努めている。	年6回を目安に運営推進会議を開催して、災害時の協力体制や事業所の利用状況など具体的内容について話し合い、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市の担当者と連絡を取っている地域包括センターとも研修会議等で連携をとっている。	市担当者や包括支援センターとは、研修会参加や日常業務を通じて相談・助言等を得ながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議の中で、身体拘束の勉強会をしている。外部での研修もあれば、全員参加させていきたい。正しい理解をし、身体拘束をしないケアを進めていきたい。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止等の内部研修会開催で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のニュースがある時には、朝礼などで、認識し合っている。日々の支援の中、精神的な虐待にも目を向けるよう見直し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ全員、学ぶ機会を作りたい。必用時には、には、活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様には、訪問面接を行い、見学を進めている。ご家族に対しては、十分な説明を行い希望や不安、疑問点をお聞きしてむ、安心して入居できるよう努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時には、ご家族に声かけし、意見や要望を聞きスタッフに周知している。要望には、敏速に対応している。	定期的な便りの発行や連絡等で情報提供していると共に家族、来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように苦情受付箱を設置して、そこでの意見や苦情等を運営に反映できるようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開き意見が言えるような環境を設けている。そこで決まった事は一か月以内に実行するようにしている。	職員の離職も少なく、継続したケアサービスを提供していると共にモニタリングやミーティング等を通じて職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを就業規則に盛り込み、給与査定基準にしている。処遇金は要件の厳しい加算Ⅰを取得し、職員の給与昇給に注力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加し、会議の中で職員に内容を周知し人材育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域包括支援センター、グループホーム協議会及び、グループホーム協会主催の研修会の参加を行い、交流を図りサービスの向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人様と会い、不安、要望等を傾聴し、入居後安心して暮らせるよう取り組んでいる。また、コミュニケーションを大切にしながら、信頼関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から話しかけやすく、安心できる雰囲気作りを心がけている。要望や心配なことに耳を傾け、ホームでどのような対応ができるか事前に話し合い対応を伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様やご家族様の話を傾聴し、細かい部分など、必要なニーズを見極め敏速に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の視点のケアサービスに努め、地域資源を含めた必要な、サービスの対応をおこなっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には、ご本人様の様子を伝えている。記録を開示し情報の共有に努めている。ご家族様には、その都度協力、助言を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご本人様の希望に添いながらこれまでの生き方や暮らし方を大切にしている。これまでご家族や知人の面会時には、また来訪して頂けるよう雰囲気づくりを心がけている。	地元のお祭り参加や買い物、自宅への帰宅やお墓参りなどで馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座席などを配慮している。入居者様が孤立しないように配慮し、トラブルがあった際には、仲介に入り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、いつでも相談にきてほしいことを伝えている。住み替えをされた利用者さんには、スタッフが会いに行っている。ご家族様には、状況を電話で状況を伺っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いを大切に、スタッフが把握し、情報が共有されている。	一人ひとりの暮らし方の希望等をカンファレンスやモニタリングで話し合い、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中ご本人様からの意向や会話を日誌に記録し、本人の思いを組み取り支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握しその状況に合わせたケアができるよう、努めている。朝礼時にも話し合い敏速に対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員が介護計画作成に関われるよう一人一人の気づきや課題等を出してもらい話し合いをしている。ご家族様や入居者様がよりよい生活ができるような介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意見や意向、モニタリング等で職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し情報を共有しながら、介護計画の見直しや評価をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の要望を聞き個別支援を行っている。入退院時には、ご本人様やご家族様の状況を配慮し、臨機応変に対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんには、協力していただきご利用者が楽しめるよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人様やご家族様の以前の主治医になっている。日々体調変化を把握し、病院と連携し適切な医療がうけられる体制になっている。	通院への支援や日常の健康管理等で適切な医療を受けられるように支援している。受診は、本人・家族の納得したかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を確保し、相談、助言をもらっている。体調の変化を見逃さないよう、心がけている。いつでも対応できるよう24時間体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と情報交換をし、ご本人様の経過や退院後のことについて、相談など連携体制を取れるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族に意向を聞き、病院と連携をとり、ホームでできることを十分に説明して納得していただいている。状況変化に対応し、職員間で情報を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防に救命講習の開催を依頼し、訓練を行った。急変時の対応に向けて再認識した。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、運営推進会議には、非常時、地域の方の協力をお願ひしている。	年2回の火災避難訓練の実施やスプリンクラー、火災報知器、通報装置などの設備を完備し、定期点検も実施している。また、緊急時に速やかに対応ができるように救急救命訓練も実施している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声かけを行い、記録にも注意している。特に排泄介助には、気を配るように努めている。	内部研修会開催等を通じて一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用様がきめられるような言葉かけの工夫に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ご利用様の希望を大切に、ケアの業務の変更を実施し、寄り添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出等は、本人の好みや季節感、温度に合わせた洋服を選びを支援している。日常は、身だしなみには、十分注意を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の好き嫌いを考慮したり、旬の食材を取り入れたメニューにしている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら旬の食材を採り入れたり、調理や下膳など職員と一緒にしている。また、嗜好を把握して、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人日誌に、食事摂取量、水分量を把握している。また、食事や水分が摂取できない場合は、栄養補助食品や代替品のし、こまめに提供する支援をしている。嚥下の状態により、個別に食材の形状の工夫やとろみをつけ工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、習慣化できるよう、口腔ケアを行っている。訪問歯科による「お口の健康診断」を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人日誌から排泄状況を把握、声かけ、誘導を行っている。声の大きさや周囲の状況に注意し、自尊心を傷つけないよう支援している。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄を把握し、状況に応じて、主治医と相談し、下剤などの調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	毎日入浴できる。体調や外出に合わせて臨機応変な対応を取っている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて個々に沿った柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活リズムに合わせて、支援を行っている。活動的に動いていただけよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、いつでも見えるようにしている。服薬時には、2度の確認と飲み込みの確認をおこなっている。内服の変更時には、情報をスタッフ間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた役割を楽しんでいただけるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の要望により、外出支援を行っている。お墓参りなどの外出は、ご家族様と相談し対応している。	日常生活の中では、本人の思いや希望を大切にしながら一人ひとりの力を活かし、音楽大行進や上川神社祭見物、大型ショッピングセンターに買い物に出かけるなど楽しみごとや気分転換への支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な入居者様は、ご家族様と相談しお金を持っている。管理が難しい方は、ホームでお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、職員とともに年賀状を作成、送付している。電話はご家族様と相談の上、回数や時間など職員が配慮してかけるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、ホームの様子がわかるように、写真を貼っている。季節がわかるように飾りつけをしている。	リビングからは、駅周辺の大型ショッピングセンターやデパート等が眺められたり、共用空間には季節毎の飾りつけで季節感が感じられるよう工夫している。また、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階がリビングルームのため、場所がなく三階に利用者が使える部屋を用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と相談し、使い慣れた家具を持ってきていただき、ご本人様が安心して暮らせるようにしている。	居室には、安全に配慮しながら仏壇や馴染みの家具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせ、補助具や手すりを用意し安全な環境を作り支援している。		

目標達成計画

事業所名 一条ハイツ

作成日: 平成 28年 6月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議等を通じて、講習会などを行い、より充実した会議になるよう企画し、地域貢献に繋げていく。	参加者やご家族様などに要望を聞き講習会の内容を検討し、進めていきたい。	ご家族様や地域の方にも声をかけ、みのりある会議で地域貢献に努めていく。	一年
2	13	大半の職員が外部との接触が少ないため、接客対応に慣れていない。	ご家族様、業者様に、対応を褒められるようになる。	社会人としての電話対応、挨拶、対応など都度指導し、確認を行う。	一年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。